



谷原小だより 7月号

平成23年7月1日
練馬区立谷原小学校
校長 眞瀬 敦子

木を伐る・木を移す

校長 眞瀬 敦子

とうとう正門両脇の桜が伐採され、東側から見る学校は妙にがら一んとしてしまいました。毎年一番に見事な花を付ける桜たちでした。

開校時地域の皆さんに百本植えていただいた校庭の桜は、今回やむを得ず6本伐採しましたので、55本となってしまいました。

もっとも「これは移植に耐えない」と診断した樹木医の見立ては確かで、切り口を見ると、どの木も根本の方が蟻に喰われかなり傷んでいました。「苔むして美しく見える木肌は、実は皮膚にカビが生えてしまったようなもので、力のある木なら苔は生えないんですよ。」という植木屋さんの話に、漸く私も伐採したことを受け入れることができました。

それでも無理を言うてお願いし、年輪がわかるよう薄い輪切りを何枚かつくっていただきました。新校舎ができたならば、せめて記念に飾ってやりたいと思ったからです。(薄いといっても生木は非常に重く、二人掛かりでも持ち上がりませんでした)そして、全てが新しくなった暁には、子供達が楽しめるよう、今度は同じ桜でもさくらんぼのなる種類を植えていただけたらいいなあと思っています。

記念樹である15mもある大楠2本の移植は圧巻でした。

みっしり茂っていた枝葉を、命を維持できる最低限までに刈り込み、地上部分と同じ長さで伸び広がっているという根を、これまたプロの技で、ぎりぎりまで切り落として、クレーンでつり上げ、少しずつ動かすのです。30年以上の歳月を経て大きく広がった根っ子は、校庭に埋められていた太い丸太を抱き込んで伸びており、これもまた大仕事でした。

いくら刈り込んだとはいえ15mもある大楠は10t以上の重さだそうで、その幹のてっぺんに地下足袋一つで立った職人さんが、クレーンが動くのにも全く動じる風もなく、地上を見下ろしながら指図している姿は、実に格好いいものでした。伝統的な紺の鳶職の装束が実に機能的で、暑さにも高さにも汚れにも強いものであることも初めて知りました。

こうして1時間以上もかけてそろりそろりと動かされた大楠は、無事プール前の畑に収まり、工事に向けて準備万端整いました。7月21日の地域説明会を経て、いよいよ着工です。



谷原っ子広場に是非登録を！

学校応援団の皆さんの努力で、火曜日も広場ができることになり、これで7月から週4日の広場が実現することになりました。つきましては、1年生の募集に合わせて新規の登録も受け付けてくださるそうです。

広場登録をしておけば、普段あまり利用しなくても、急な用事や保護者会の時にお子さんを預かっていただけます。

未登録の方は、是非この機会にお入りください。お子さんも楽しく安全に過ごすことができます。